市町村名	南大東村

令和５年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	遠隔離島定住促進住宅整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(4)-ウ 持続可能な地域づくりを担う人材の育成・確保
担当部課名	土木課	事業実施（予定）年度	令和5～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9-(2)

事業内容	Iターン・Uターンによる移住者等の定住促進を図るため、定住促進住宅を整備する。
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和6年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R5年度（繰越）			
予算の状況	(a) 当初予算額	86,419	0			
	(b) 予算現額	86,419	0			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	86,419			
	A. 計 (b+d)	86,419	86,419	0	0	0
B. 執行済額		0	86,419			
うち交付金充当額		0	69,135			
次年度繰越額		86,419	0			
執行率（%）(B/A)		0.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		遠隔離島定住促進住宅建設に必要な用地取得について、地権者との交渉が難航し、不測の日数を要したことから、用地購入費及び工事費にかかる86,419千円を繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度			
住宅用地、ユニット等設計、基礎工事、ユニット製作、海上輸送の実施	目　標	住宅用地、ユニット等設計、基礎工事、ユニット製作、海上輸送の実施			
	実　績	完了			
	目　標				
	実　績				

達成状況説明	遠隔離島定住促進住宅建設に必要な用地取得について、地権者との交渉が難航し、不測の日数を要したため、事業を翌年度へ繰越して完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度			目標値（R6年度）
住宅用地・住宅（ユニットハウス）取得完了（4世帯）	目　標	（　）	（用地・住宅取得）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
島外からの移住者数	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（移住者数4名）
	実　績					

進捗状況説明	遠隔離島定住促進住宅建設に必要な用地取得について、地権者との交渉が難航し、不測の日数を要したため、事業を翌年度へ繰越して完了した。

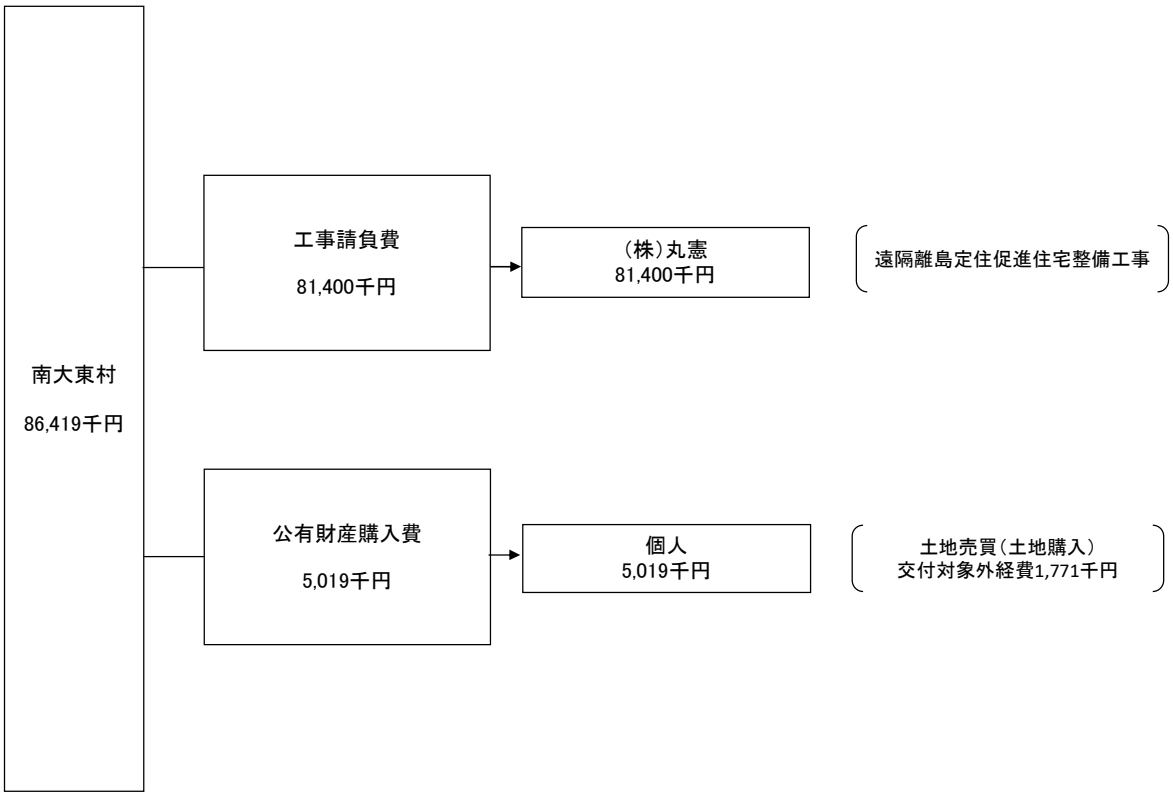
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・建設資材や労務費が高騰し、建設コストが沖縄本島より大幅割高。 ・建築労働者の確保が難しく、沖縄本島と比較して工期の長期化が常態化している。 ・民間賃貸住宅の供給がほぼなく、公営住宅依存度が高い。 ・移住希望者への住宅提供が追いつかず、移住促進の足かせとなっている。	・汎用的、規格型住宅の導入による建設コストの抑制。 ・設計、調達段階での標準化と複数年整備の計画化。

今後の取り組み方針

今後は、定住促進に向けた住宅整備の実行性を高めるため、以下の方針で計画策定を進める。
・住環境の現状分析と将来予測を含む基礎調査を実施し、移住希望者や地域ニーズを的確に把握。
・調査結果を踏まえ、入居対象世帯の属性や住宅ニーズを明確化し、効果的な住宅整備計画の基礎とする。
・間取り、建築戸数、着工時期、分譲・賃貸の住宅区分など、具体的な整備目標を設定。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
88,190	86,419	69,135	17,284	1,771



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負の業者選定は指名競争入札により実施、予定価格を下回る不落随契であり、妥当であったと考えている。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であると考え、必要不可欠であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南大東村

令和５年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	第2次南大東村観光振興計画事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(10)-ウ 持続可能で質の高い離島観光の振興
担当部課名	産業課	事業実施（予定）年度	令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	本村の既存の観光振興計画を改訂することにより、施策の総合的且つ、計画的な観光推進を図る。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R5年度（繰越）			
予算の状況	(a) 当初予算額	12,089	0			
	(b) 予算現額	7,431	0			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,658	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	7,431			
	A. 計 (b+d)	7,431	7,431	0	0	0
B. 執行済額		0	7,431			
うち交付金充当額		0	5,944			
次年度繰越額		7,431	0			
執行率（%）(B/A)		0.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		観光振興計画の策定において、観光客誘致と環境保全を両立するエコツーリズムの検討に時間を要したため、調整に日数を要し、委託料7,431千円を翌年度へ繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度			
観光振興計画改訂	目　標	観光振興計画改訂完了			
	実　績	完了			
	目　標				
	実　績				
達成状況説明	観光振興計画の策定において、観光客誘致と環境保全を両立するエコツーリズムの検討に時間を要したため、計画策定業務に想定外の日数がかかったことから、事業を翌年度に繰越して完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度			目標値（　年度）
観光振興計画改訂	目　標	（　）	（計画改訂完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	観光振興計画の策定において、観光客誘致と環境保全を両立するエコツーリズムの検討に時間を要したため、計画策定業務に想定外の日数がかかったことから、事業を翌年度に繰越して完了した。					

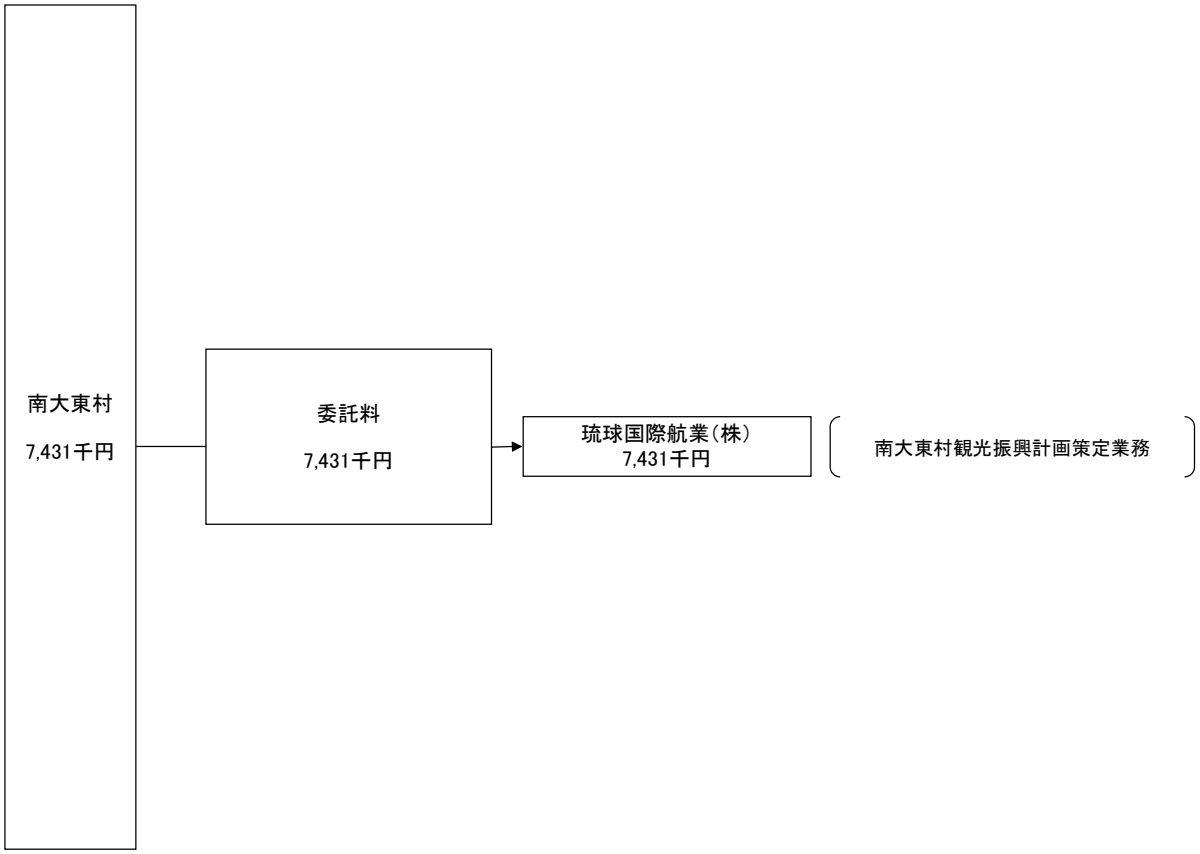
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光資源の整理や商品化が不十分 ・情報発信が弱く、広報手段が限定的 ・施設や交通などの受入環境が未整備 ・地域との連携体制や人材が不足 ・数値目標の進捗管理体制が不十分	・観光資源の優先順位付けと集中的整備 ・既存施設や地域団体との連携活用 ・小規模な実証事業の導入による失敗リスクの最小化 ・KPIに基づく施策評価の仕組みづくり

今後の取り組み方針

・令和7年度は、令和5年度策定の基本計画に基づき、施策ごとの具体的取組内容、KPI、優先順位、実施体制、スケジュールを明確化した実施計画を策定する。
・あわせて、技術導入や補助制度の活用、関係団体との役割分担を検討し、PDCAに基づく進捗管理体制を整備することで、計画の実行性と持続性を高める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,431	7,431	5,944	1,487	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であると考え、必要不可欠であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南大東村

令和５年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	循環型農業推進事業（土壌改良材製造施設整備事業）		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-（10）-ア 農林水産業の振興
担当部課名	産業課	事業実施（予定）年度	令和4～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-（6）
事業内容	島内での土壌改良材の自製を可能とし、現在堆肥の投入が行われていない農場へ散布することで、農業生産性の向上を図る。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（ 令和9年度）				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）
予算の状況	(a) 当初予算額	85,800	182,160	0	158,853	0
	(b) 予算現額	88715	201,850	0	105,819	0
	(c) 増減額 (b-a)	2,915	19,690	0	▲ 53,034	0
	(d) 繰越額	0	0	185,430	0	66,884
	A. 計 (b+d)	88,715	201,850	185,430	105,819	66,884
	B. 執行済額	85,800	16,225	185,430	26,950	66,884
	うち交付金充当額	68,640	12,980	148,343	21,560	53,507
次年度繰越額		86,419	185,430	0	66,884	0
執行率（%）（B/A）		96.7%	8.0%	100.0%	25.5%	100.0%
予算の状況の説明		鳥獣保護法に基づく鳥獣特別保護地区内の事業予定地において、事業を着手するに当たって必要となる工作物の新築等の許可に関する協議を環境省と行っており、実施設計業務に不測の日数を要したため、委託費にかかる66,884千円を繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	
実証試験（試料製造・分析等）検証 土壌改良材製造施設の基本設計 土壌改良材製造施設の実施設計	目　標		実証試験の実施 基本設計の実施	実証試験の実施 実施設計の実施	
	実　績		完了	完了	
機器整備（備品購入）	目　標	水草除去装置1基及び木材破砕機一式	水陸両用パワーショベル一式及び8t深ダンプ1台		
	実　績	完了	完了		

達成状況説明：令和5年度に実証試験の実施及び実施設計の実施を完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（ 年度）	R3年度	R4年度	R5年度	目標値（ R9年度）
実証試験（試料製造・分析等）検証	目　標	（　）	（　）	（　）	（ 検証完了 ）	（　）
	実　績				完了	
土壌改良材製造施設の実施設計	目　標	（　）	（　）	（　）	（ 設計完了 ）	（　）
	実　績				完了	
さとうきび生産量（過去10年平均から5%増）	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（ 5%増 ）
	実　績					

進捗状況説明：実証試験（試料製造・分析等）検証は年度内に完了したが、土壌改良材製造施設の実施設計業務においては、事業予定地が鳥獣特別保護地区内にあるため、環境省との許可協議に時間を要し、実施設計業務に想定外の日数がかかったことから、事業を翌年度に繰越して完了した。

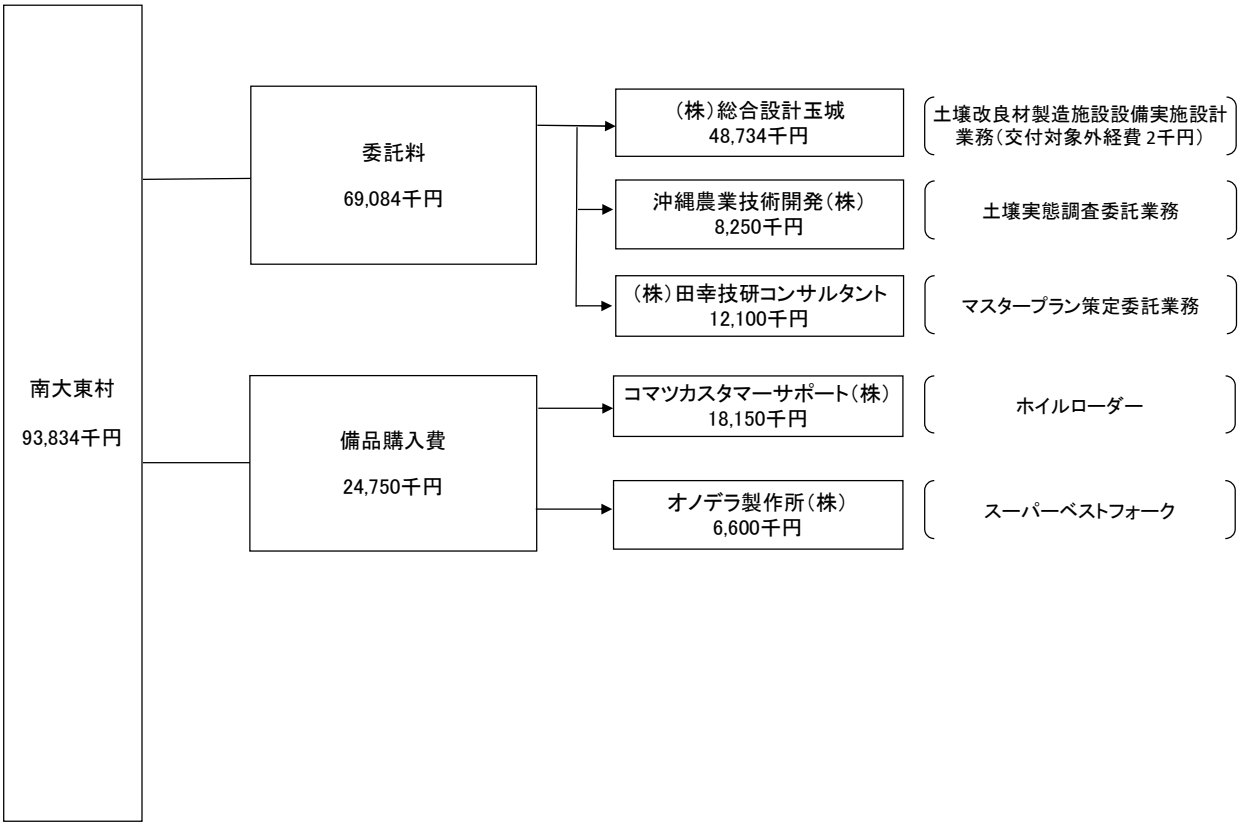
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	自然池に繁殖する大量の水生植物が、自然池一面に覆い被さっており、それらを除去する機器が整備されたことにより定期的な除去に努めていく必要がある。又、除去した水生植物を土壌改良資材として積極的に活用する取組が必要となる。	自然池に繁殖している水生植物を、定期的に除去を実施することで自然池の環境保全が図れ又、土壌改良資材として製造及び活用することで農業生産の振興につなげていける。

今後の取り組み方針

令和7年度以降は土壌改良材施設を整備することにより、除去した水生植物及び倒木等を木材チップにした資材も活用した良質の堆肥製造を行い、ほ場等に還元し活用することで農業振興の発展に向けた取組を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
93,836	93,834	75,067	18,767	2



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定はプロポーザル又は指名競争入札により実施し、備品購入においては取扱っている事業者が1者のみであるため妥当であったと考えている。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であると考え、必要不可欠であるため適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南大東村

令和５年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	文化の承継と観光の拠点機能強化整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア 沖縄文化の承継・発展・普及
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	令和5～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)
事業内容	訪問者が歴史文化を学ぶスペースや滞在型観光にむけた整備計画及び歴史資料のデジタル化や新たな展示物の検討または配置計画を行う。				
効果発現年度	□当年度　■後年度（ R7年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R5年度（繰越）			
予算の状況	(a) 当初予算額	1,279	0			
	(b) 予算現額	1,279	0			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	1,279			
	A. 計 (b+d)	1,279	1,279	0	0	0
B. 執行済額		0	1,279			
うち交付金充当額		0	1,023			
次年度繰越額		1,279	0			
執行率 （%） (B/A)		0.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		計画策定に向けた検討委員会を開催し、歴史・文化の展示施策に加え、観光客向けのワーケーションツーリズムの検討も必要となったことから、関係者間での調整に不測の日数を要したため、計画のとりまとめが年度内に完了せず、委託料2,298千円を翌年度へ繰越した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度			
基本計画（案）の策定	目　標	基本計画（案）策定完了			
	実　績	完了			
	目　標				
	実　績				
達成状況説明	計画策定に向けた検討委員会を開催し、歴史・文化の展示施策に加え、観光客向けのワーケーションツーリズムの検討も必要となったことから、関係者間での調整に不測の日数を要したため、事業を翌年度へ繰越して完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（ 年度）	R5年度			目標値（R7年度）
基本計画（案）の策定	目　標	（　）	（計画案策定完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
年間利用客数	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（3,000～6,000人）
	実　績					
進捗状況説明	計画策定に向けた検討委員会を開催し、歴史・文化の展示施策に加え、観光客向けのワーケーションツーリズムの検討も必要となったことから、関係者間での調整に不測の日数を要したため、事業を翌年度へ繰越して完了した。					

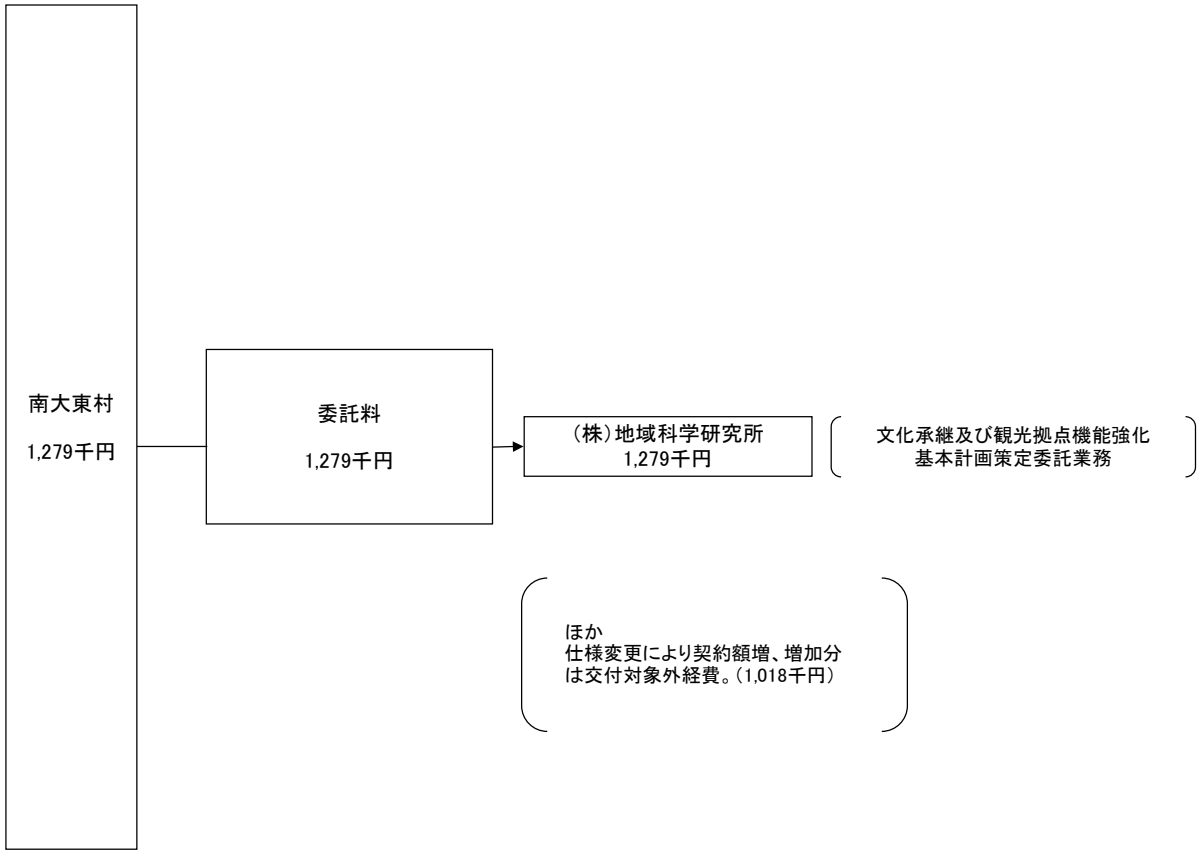
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・書庫内の書類整理・資料収集に相当の作業負担と時間を要する。 ・歴史資料の分類・保存、デジタル化に専門的知識が必要であり、人的体制の確保が課題。 ・展示・活用に向けた資料の選定や編集方針の整理が不十分。 ・村の歴史文化を効果的に発信するための展示ノウハウや広報戦略が不足 ・利活用スペースの整備にあたっては、利用者ニーズの的確な把握と計画反映が求められる。	・資料整理・デジタル化の外部委託や専門家活用。 ・収集資料の選別基準の明確化。 ・ICTを活用した展示・閲覧の効率化。 ・ワーケーションスペースの利用実態に応じた段階整備。 ・地元人材の育成と地域連携による運営分担。

今後の取り組み方針

・今後は、令和7年度以降に検討、策定された基本構想を基に、文化展示と観光機能の両立を目指した基本、実施設計及び整備事業に着手する。
・展示内容の再構成と動線計画の見直し。
・必要な設備、機器の実施設計と設置。
・既存資料の整理とデジタル化の推進。
・地域内外への情報発信と利活用の仕組みづくり。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,297	1,279	1,023	256	1,018



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であると考え、必要不可欠であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南大東村

令和５年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-①	南大東村ビジターセンター施設機能強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア 沖縄文化の承継・発展・普及
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	令和5～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(3)

事業内容	天然記念物及び島の貴重な資料を損失リスクから守る対処案と、誰もが容易に施設内を観覧できる改善案をまとめ、島の特色を活かした観光資源の活用等の計画を行う。
効果発現年度	□当年度　■後年度（R8年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R5年度（繰越）			
予算の状況	(a) 当初予算額	2,866	0			
	(b) 予算現額	2,866	0			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	2,866			
	A. 計 (b+d)	2,866	2,866	0	0	0
B. 執行済額		0	2,866			
うち交付金充当額		0	2,292			
次年度繰越額		2,866	0			
執行率（%）(B/A)		0.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：計画策定に向けた検討委員会を開催し、動植物保護や資料保存に関する施策に加え、観光客向けのワーケーションツーリズムの検討も必要となったことから、関係者間での調整に不測の日数を要したため、計画のとりまとめが年度内に完了せず、委託料3,366千円を翌年度へ繰越した。

活動目標（指標）及び達成状況

R5活動目標（指標）		達成状況 R5年度			
基本計画（案）の策定	目　標	基本計画（案）策定完了			
	実　績	完了			
	目　標				
	実　績				

達成状況説明：計画策定に向けた検討委員会を開催し、動植物保護や資料保存に関する施策に加え、観光客向けのワーケーションツーリズムの検討も必要となったことから、関係者間での調整に不測の日数を要したため、事業を翌年度へ繰越して完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R5成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度			目標値（R8年度）
基本計画（案）の策定	目　標	（　）	（計画案策定完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
年間利用客数	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（3,000～6,000人）
	実　績					

進捗状況説明：計画策定に向けた検討委員会を開催し、動植物保護や資料保存に関する施策に加え、観光客向けのワーケーションツーリズムの検討も必要となったことから、関係者間での調整に不測の日数を要したため、事業を翌年度へ繰越して完了した。

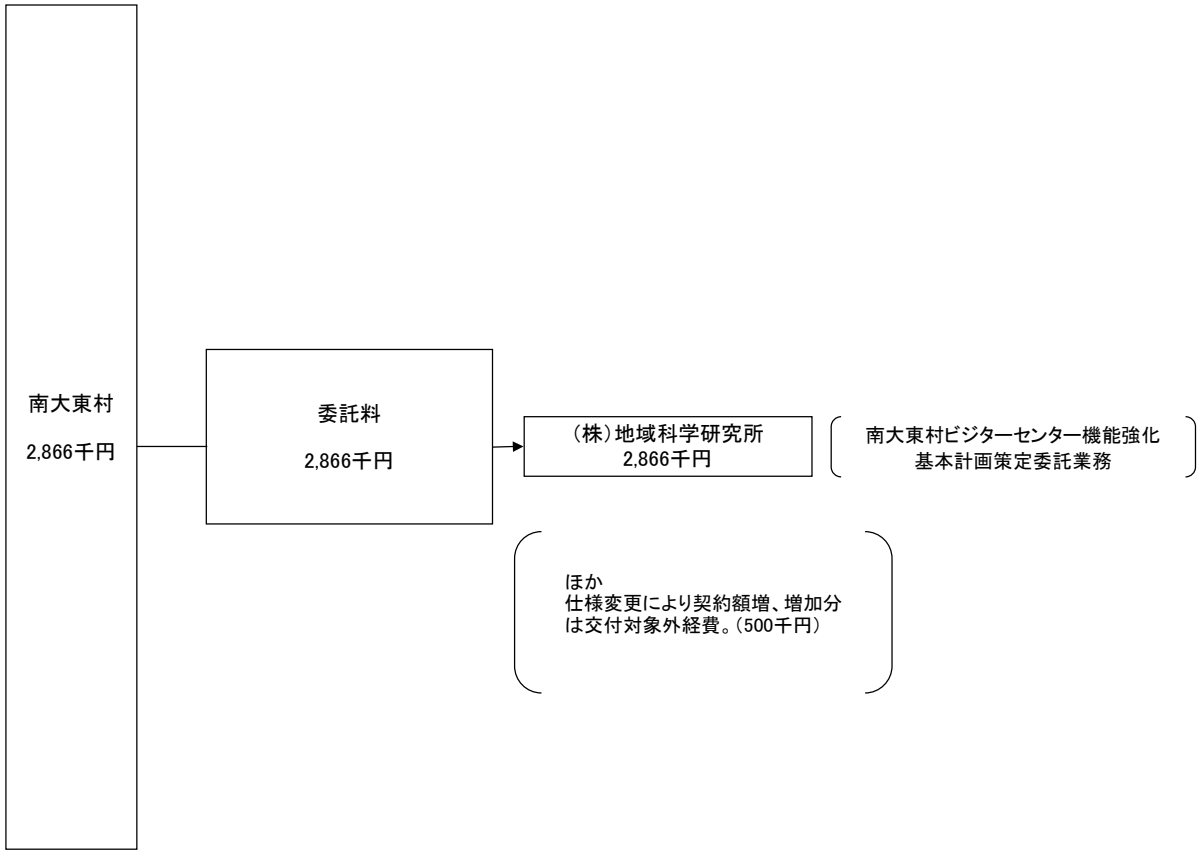
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・展示内容や発信手法が限定的で、来訪者への情報提供が十分に届いていない。 ・観光体験メニューやプログラムが少なく、滞在時間の延伸につながりにくい。 ・観光ガイドや案内人材の育成、確保が進んでおらず、人的対応が限定的。 ・村民への啓発活動の継続が必要で、生物多様性保全と観光の両立についての理解促進に課題がある。 ・展示、保存機能の強化にあたり、設備投資や技術面での検討、調整に時間を要する。	・展示、発信内容のデジタル化による運営効率化。 ・常設展示と体験プログラムの統合的設計。 ・地域ガイドの育成、活用と業務の一部委託。 ・村民参加型の運営による理解促進と人的コスト削減

今後の取り組み方針

・今後は、令和7年度以降に検討、策定された基本構想を基に、施設の機能強化と観光振興の両立を目指した基本、実施設計及び整備事業に着手する。
・展示内容の再構成と動線計画の見直し。
・必要な設備、機器の実施設計と設置。
・既存資料の整理とデジタル化の推進。
・地域内外への情報発信と利活用の仕組みづくり。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,366	2,866	2,292	574	500



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であると考え、必要不可欠であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	